



# 広島県の農家民宿先進地視察会 世羅高原6次産業ネットワーク

令和4年10月25日(火曜日)～26日(水曜日)に広島県世羅郡世羅町に赴き、農林漁家民宿の運営について、世羅高原6次産業ネットワーク事務局のご担当者、経営されている3人の方にお話を伺いました。



VOL.1

## 世羅高原6次産業ネットワークについて

世羅高原6次産業ネットワーク事務局 則貞 裕子氏

### ネットワークの加入者は、20年を経て倍増

私たち世羅町につきましては、6次産業に取り組む以前は「農業で経営安定ができない」「農業者の高齢化・担い手不足」「観光客の減少・リピーターの減少」など、様々な課題を抱えていました。そこで次のような改革を試みました。先ず1次産業(生産)のみだった地場産業に、平成10年(1998年)、加工・販売に販路拡大が可能となるよう『世羅高原6次産業推進協議会』を結成。翌年平成11年(1999年)には、『世羅高原6次産業ネットワーク』を設立いたしました。当初、本ネットワークの加入者は32団体でしたが、おおよそ20年を経た、令和3年度(2021年度)現在では、倍以上の72団体が参加しています。

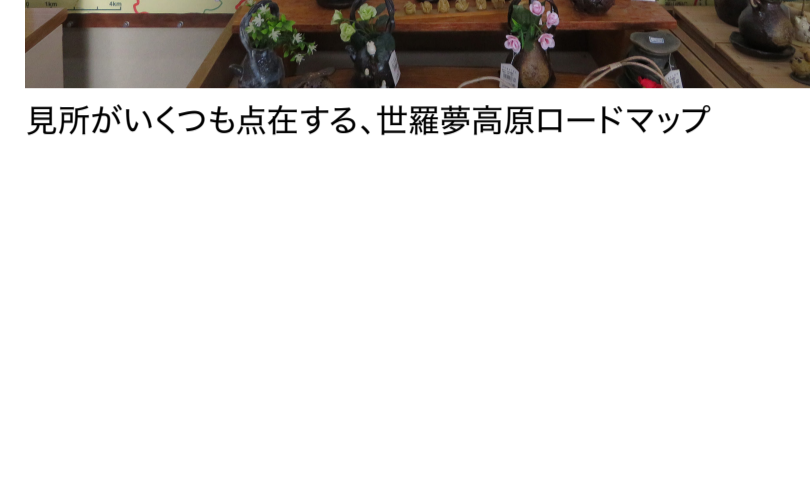
### 地域産業の好循環を今後も守り続けたい

ネットワーク組織の構築は、様々な好影響を生みました。加入した生産者・加工者・農家レストラン・農家民宿等が互いに連携がしやすくなることで業務が改善。特産物売り上げ増加、拠点施設への訪問者の増加、そして何より世羅の町について、町内外の方に広く知っていただけるようになったことから、ネットワーク関係者のモチベーションアップに繋がりました。結果として、地域産業に素晴らしい好循環が生まれました。

しかし、近年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、町のメインイベントのひとつだった「スローフードフェスタ(地産地消フェア)」の開催が困難な状況となりました。そこで令和3年度は、ドライブスルー形式(車の中で世羅の食材を楽しんでもらう)で開催し好評を得ました。今後も、コロナ禍の厳しい状況はもちろん、様々なアクシデントにおいても、町でアイデアを出し合い、工夫しながら町イベントの開催をおこなってきたいと思っています。



先進地視察会の一コマ。則貞さんの説明にも熱がこもる



見所がいくつも点在する、世羅夢高原ロードマップ



VOL.2

## 農家民宿「高光」

世羅高原6次産業ネットワーク 副会長、世羅高原農家民宿連協 会長 橋川 正治氏

### 6次産業、農家民宿運営に携わるようになったきっかけ

私は元々製造業に携わるサラリーマンをしていましたが、当時仕事に限界を感じて、早期退職いたしました。その後、地域の人、世羅の素晴らしい自然に関われるような仕事ができないかと考えるようになりました。そこで、直売事業を運営しながら、6次産業の活動として農家民宿という仕事に出会ったんです。

世羅町で農家民宿を始めたのは私が最初であり、当時はうちを含め3軒からのスタートでした。民宿の営業を始めるにあたり、先ず考えたことは「世羅に訪れてくれた方の滞在時間がどうすれば長くなるか」でした。仲間との連携をしながら、様々な工夫を続けるうちに、徐々に農家民宿も増え始め、現在は16軒ほどまで増えています。

### 農家民宿を運営する上で意識していること

民宿を運営していて、常に考えることは、お客さまに世羅町の魅力をより深く知っていただき、楽しんでもらうこと。そして同時に、私たち自身もお客さまとの交流を楽しんでいきたいと思っています。

また経営の“主”は農業であり、農家民宿は“副業”という意識もあります。自分たちが苦になるほど詰め込んでしまわず、楽しめる民宿運営を心掛けたいからです。農業しながら農家民宿を運営する「半農半X」の感覚で事業を展開していければと考えています。

その他、農家民宿毎でそれぞれ特色あるものを打ち出していければ良いと思います。うちの場合は、食事で提供するものには、極力世羅町産のものにこだわって使用しています。料理担当は妻なのですが、自分の仕事をしながら手伝ってくれるので有難く思っています。今後も力を合わせながら、年を取っても新たなことにチャレンジし、この町を訪れるお客さんを喜ばせたい。この気持ちは常に忘れないようにしたいです。

### 開業する際の資金につきまして

開業する際、平成27年(2015年)に農林水産業みらいプロジェクト事業(農林水産業みらい基金)を活用して、新規農家民宿の改修等に1軒100万円ほどの助成を組みました。主にトイレやお風呂等の水回りに活用しましたね。この資金のおかげで宿泊者が安心して泊ってもらえる宿仕様の整備が進みました。

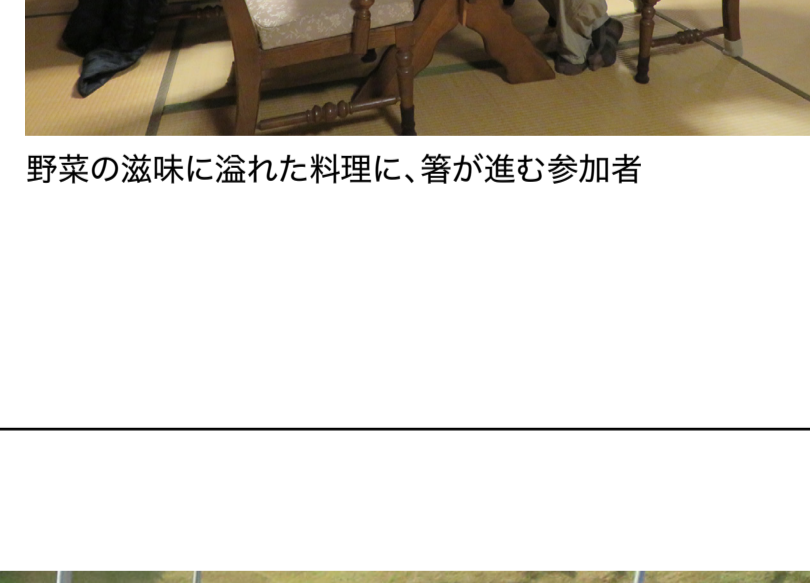
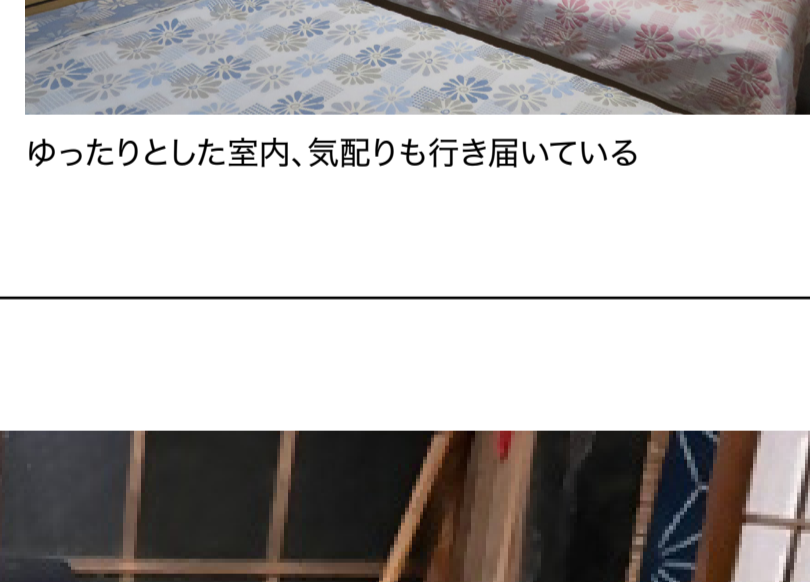
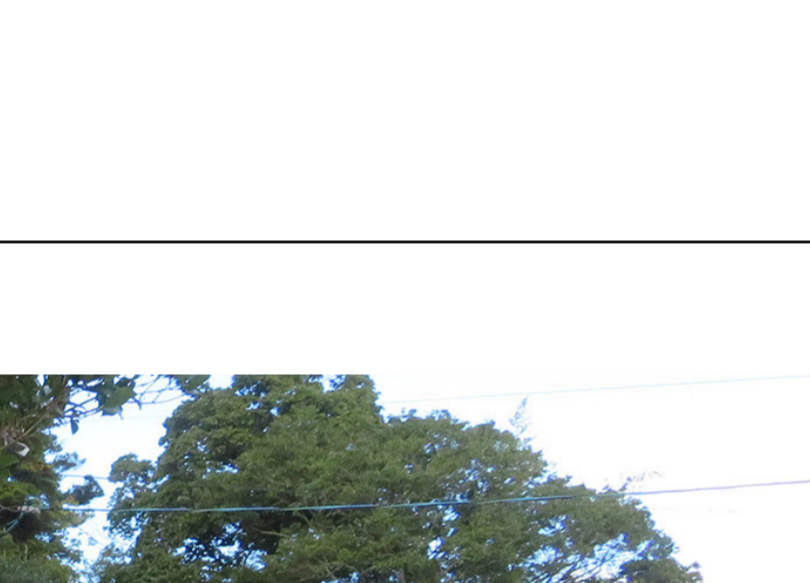
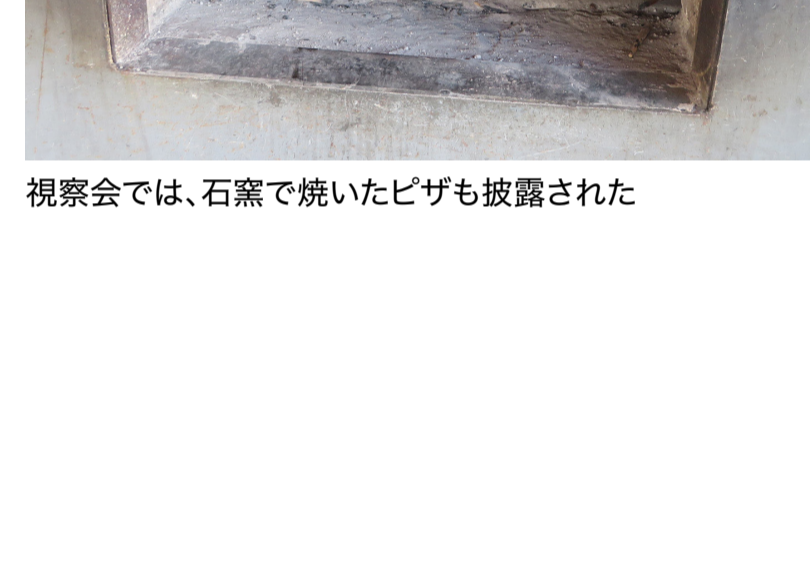
### 現在の農家民宿の活動につきまして

うちは農家民宿運営を通じて、様々な方と出会い、お話しすることで力をもらっています。ただ世羅町の農家民宿の半分近くは、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けて休業状態ですね。以前からインターンシップなどでお付き合いのある広島大学の学生さんの受け入れをしたいのですが、この状況では無理に運営するようには言えないです。今は、コロナ禍が早く収まってくれるのを願っています。

運営強化を目指す上で、現在取り組んでいるのが、近くの温泉施設の優待が受けられる提携です。お客さまの送迎もできるだけ対応すれば、相互にメリットが生まれる交流だと思いますので頑張って実現したいですね。



民宿経営は「自分も楽しむことが大切」と橋川さん



時を忘れて動いた収穫体験も閉幕間際。お疲れさまでした



VOL.3

## 農家民宿「悠悠緩緩」

宮濱 康正氏

### 農林漁家民宿を始めたきっかけ

40年ほどサラリーマンとして勤務した後、退職して妻の実家がある広島へ戻ってきました。元々夫婦で新たな目標にチャレンジしていた空間があり、昭和26年(1951年)星野の納屋を片付けて『Café悠悠緩緩』をオープン。さらに『農家民宿 悠悠緩緩』を開業しました。農家民宿は開業して今年で4年目となり、これからも地域の農産物などを活かした世羅町の魅力発信のお手伝いができればと思っています。

### 世羅の素晴らしい環境が宿の自慢

世羅町は自然豊かな景観が素晴らしい地域です。ですから、満点の星空、静かに聞こえる虫の声、美味しい空気など普段は味わえない空間を楽しんでもらいたい。この自然に出会った人は皆さん魅了されるみたいですよ。

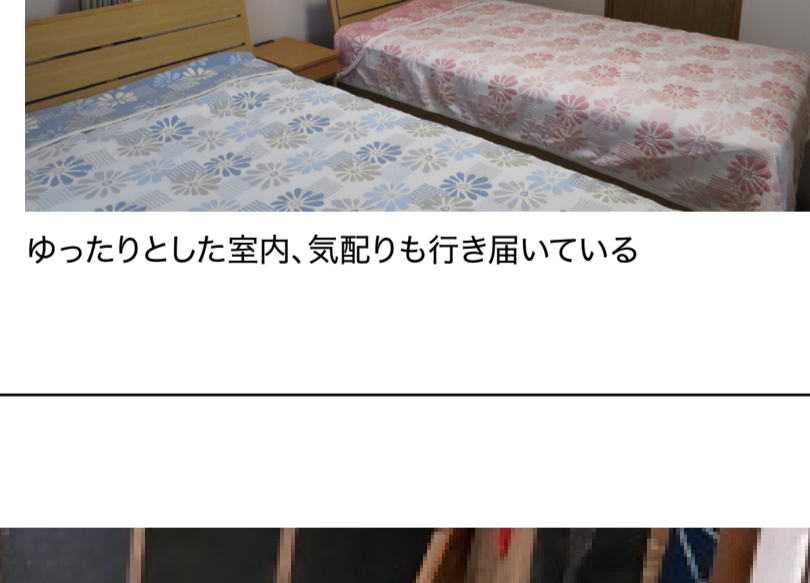
また、施設にはピザを焼く窯があります。美味しい空気の中で、うち自慢のナポリピザを堪能し、ゆったりとした客室でのんびり過ごしてもらえればと思っています。

### 今後の農家民宿運営につきまして

現在はまだ新型コロナウイルス感染症の影響で、ほぼ休業状態です。けれど来年の春や夏にはまた沢山の観光客が来てくださると思っています。その時期やお客さまの獲得を目指して頑張りたいと考えているところです。カフェや農家民宿の運営は、自分たちが元気であるための拠り所であり、目標ですからね。家族も子どもたちも「頑張れ」って応援してくれているので、心強く思っています。



「悠悠緩緩」の宮濱さんの熱心なアテンドが続いた施設見学



VOL.4

## 農家民宿「中吉屋」

森 祐志氏

### 農林漁家民宿を始めたきっかけ

6次産業ネットワークや行政の方々から何度かお願いを受けて、平成29年度(2017年度)から農林漁家民宿を始めました。民宿には、築130年以上の古民家を活用しています。

民宿のメインとなるのは食事だと思っていて、うちでは私たちが普段食べているものを提供しています。ですから、お金をいただくのはどうなのかと迷うこともありますね。ただ民宿運営に関しては「夫婦二人で無理なく」が基本だと考えているので、併設しているカフェの運営も含めて、私たちができることを、これらも活用しておこなっているんです。※令和6年1月現在は、新型コロナウイルス感染症の影響より休業中です。

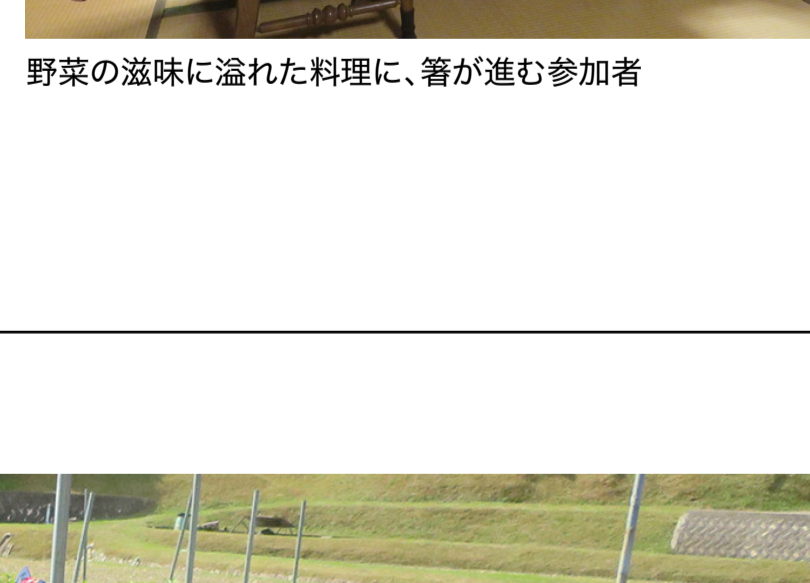
### これまでに印象に残っている出来事

「カメラ女子」と呼ばれる方々が、世羅の花景色をカメラに収めたいと関東から何度か遊びにきてくださったことでしょうか。とても喜んでもらえましたね。うちの民宿の周りは、街灯が一切ない地域なので「部屋の電気を全て消して、ぜひ星空観察も楽しんでください」とご案内すると、星景色にも心を奪われていましたね。その感動している姿が、とても印象に残っています。

この宿の中でも山間部にあり宿舎です。自然は豊かで美しいのですが、猪なども多く見られるので、宿泊されるお客さまには注意していただくようお願いしています。私たちが常に気を引き締めておくべきことだと思っています。



世羅町の野菜がふんだんに使われた中吉屋さんの料理



VOL.5

## 地域の農業体験農園での収穫体験

農家民宿 高光 橋川 正治氏

### 地域の農業体験農園での収穫体験につきまして

世羅高原では、豊かな農業環境を活かして旬の野菜年間50種類の収穫体験をおこなっています。

#### 収穫品種(一例)

- ◎ごぼう ◎さつまいも ◎大根 ◎ジャンポインテン
- ◎パプリカ ◎ピーマン ◎里芋 など

### 収穫体験での注意点

今回の視察時期(10月下旬)は、収穫できる野菜が少ない時期です。また、霜が降りて収穫体験自体ができない場合もあり、その日の状況次第で体験の内容が大きく変わることが多くある場合、注意が必要です。

農業を経験したことがない方も多く参加することも想定し、収穫体験前には、農作物についての話を耳を傾けていただくためにも興味を持って聞いてもらえる説明が必要だと思います。また、農機具を正しく使用してもらい、怪我などには細心の注意を払う必要があります。



時を忘れて動いた収穫体験も閉幕間際。お疲れさまでした